

現地視察結果

現地視察結果

1. 視察日時

- ・令和8年5月15日（金） 11:00～17:00
- ・令和8年6月 8日（月） 11:00～17:00

2. 出席委員

氏名	所属
大串 葉子	同志社大学大学院ビジネス研究科教授
小澤 一雅	政策研究大学院大学特別教授
小林 潔司	京都大学経営管理大学院特任教授
齋藤 英智	山口大学経済学部教授
戸田 順一郎	西南学院大学商学部教授
根本 敏則	敬愛大学情報マネジメント学部特任教授
◎羽藤 英二	東京大学大学院教授
円山 琢也	熊本大学大学院先端科学研究部教授
渡邊 一成	福山市立大学都市経営学部教授

◎：委員長（50音順、敬称略）

4. 意見交換会

関係機関（国、県、市）と委員による意見交換を実施



令和8年5月15日（金）



令和8年6月8日（月）

3. 視察概要

◆視察① 関門橋

関門橋の維持管理状況を視察



◆視察② 関門トンネル

関門トンネルの維持管理状況を視察



◆視察③ 福浦ボートパーク

下関市側架橋位置を視察



◆視察④ 日明海峡釣り公園

北九州市側架橋位置を視察



●委員からの主な意見

- ・ 下関北九州道路は北九州全体へ及ぼすインパクトが非常に大きい
- ・ 下関側の道の駅などの地域活性化に関する取組の検討にあたっては、観光の視点だけではなく、防災の視点も重要
- ・ 観光や自転車道などの取組について、関門エリアとして下関側と北九州側の両地域で温度差が出ないように検討する必要がある
- ・ 山口県側において、下関北九州道路を経由する下関ＩＣまでのルートについては、アクセスコントロールされた道路が１ルートは必要
- ・ 下関北九州道路の整備に併せて、接続される山口県側道路ネットワークの整備・強化が必要不可欠であり、その整備が遅れると、下関北九州道路の整備による時間短縮効果が小さくなり、無料でも利用されない道路となってしまう懸念がある
- ・ ６０ｔ車両の通行といった重量車両の対応については、下関北九州道路だけではなく、接続される九州側の北九州都市高速も含めて一体的に考える必要
- ・ 下関北九州道路の料金体系について、一般有料道路のような個別採算性となれば、建設費や維持管理費を償還するために料金が高くなりすぎてしまう懸念がある
- ・ 下関北九州道路以外の区間も山口県側の負担が大きく、九州側は北九州市の負担が大きいことが課題
- ・ 今後の現地調査に関して、風況や地盤など事業費の変動が予想されるため、まずは詳細な調査を実施することが必要
- ・ 関門トンネルの維持管理には相当の労力を要していることを踏まえると、下関北九州道路においては、将来の維持管理の負担が減るようにしていくことが必要
- ・ 交通需要の検討にあたっては、潜在的な交通需要も見込まれることから、既存のＯＤ表にとらわれず、幅広い検討が必要
- ・ 早期のリダンダンシーの確保が必要であり、出来るだけ早く事業を完成させられる整備スキームが必要
- ・ 事業を進めるにあたっては、関係機関（国・県・市等）が連携した体制を構築することが重要
- ・ 下関北九州道路だけではなく、前後の道路ネットワークも含めて一体的にプロジェクト単位を考える必要があり、事業評価などもプロジェクト単位で検討する必要がある
- ・ 若手がこのような大きなプロジェクトに関わっていくことが必要